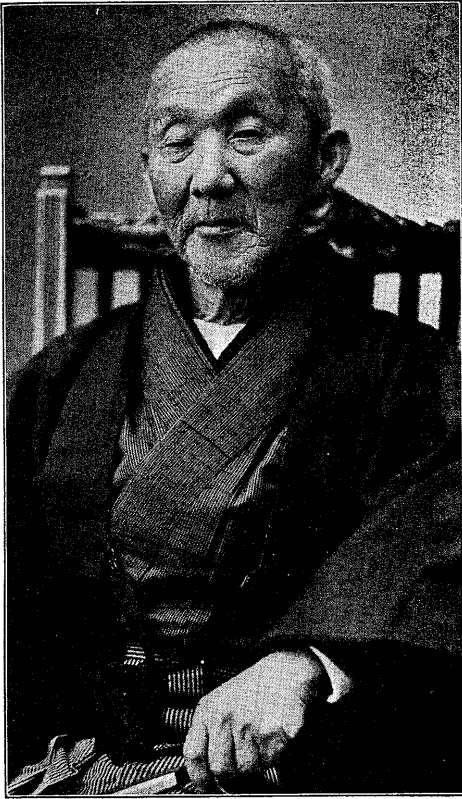


藤野寄命翁ノ自叙傳

ユルマツカリヌブリ山ノ事デ一ニ蝦夷富士ト呼ビ昔カラ著名ナ高山デアアル、ぎしぎしハ原頭ニ多キタデ科ノ雜
 艸デ *Rumex japonicus* MEISN. ノ學名ヲ有スル、此草ニ前述ノ様ニシト云フ古名ガアル其根ヲしのね^{ワサビノ根}ノ意根
 稱シ藥用ニシタモノデ今モ尙同屬ノまだいわう (R. *Daivoo* MAKINO.) ノ根ト同様ニ民間デ往々之ヲ薑擦子^{ワサビコシ}デ
 擦リオロシ酢デ練ッテいんさんたむしノ患部ニ傳ッケルコトガアル又其實ヲ乾カシ蕎麥^{バグ}殻ノ代リニ之ヲ茶枕ニ入
 ルハコトヲ北海道利尻島デ見受ケタコトガアッテ自分モ試シテ見タガアマリ上等ナモノデハナイ

○藤野寄命翁ノ自叙傳



藤野寄命君 Mr. KIMEI FUDZINO.

(大正十一年一月二十三日撮影)

[illegible]

牧野富太郎

予は若州小濱傳習學校
(後初等師範學校又中學校
と改稱)一歴史・博物科
教員任務中明治十年
日露中仕略を利用して上

京し大學植物學の長矢田部氏より特別研究の書付を得て日々小石川植物園へ行く（當時は伊藤錦窠翁の管理なりしと覺ゆ）同園中の樹木には其名稱と科名を記した建札あり予の知らざるものは形狀の概略を記し又同園室内に掲示の額圖や備付の書籍などは乞ふて一覽もしたり（室内には畫工加藤竹齋氏と賀來氏とありしと記憶す）又槭樹の如きも大分品種ありしが一葉づつ請求して貰ひ受けたり數日の間握り飯を携へて通ひ園丁内山氏の厚意にて一椀の茶を惠まれたこともあり又園中の舶來品に *Verbascum* あり其頃には甚だ珍らしく思ひ其名稱を園丁に尋ねしに「モウズイクハ」と答へしと覺ゆ其頃伊藤翁編纂同園目錄には「ブルバスキム」とあれども後年大學の標品目錄には「毛茛花」とあるを以て考れば其當時より同園にては「モウズイクハ」と呼び居りしこと分明なり歸郷後予は校員にも諮り學務課にも請求し自分も僅少ながら築壇費の幾分を献金し又灌漑者一人だけを使備する途を得校庭内に小植物園を設く植物園などと云へば僭稱誇張の言辭かも知らざれども譏譽褒貶は他に任かし此時代に在って日本全國中地方の一學校に如此設備のありしものは一箇所もなかりしならん之を思へば其組織の如何に不完全なるも其設備の如何に微小なるも其栽植品は盡く予輩及び各生徒が寄附せしものにて其枯損を補ふたり又品種を入れ換へたりするは盡く予が山野より採集するものにて之を林娜氏二十四綱に分類し大小二十四箇の花壇を設け時間などには關係せずいつも生徒各自の研究に充て質問の料に供す孰れも喜んで研究し予亦少しの倦怠もなく勇み喜んで其説明に任んず唯淺學寡聞其苦辛も容易ならざれども何れも嬉々欣々然として予が説明を謹聽していつもいつも時間の足らざるを憂ひて予が指導を悦服する狀況の愉快なる言ふ可らず故に當時の予は實に晝夜と云はず殆んど寢食を忘るが如く職務に勤勉し日曜の如きは有志の生徒を伴ふて野に山に植物を採集して實物教授をなす予が履歷辭令書中に築壇費云々奇特の事の辭令書は今尙存す又明治十一年かと思ふ卒業生に告ぐる拙文（専ら植物の事を記す）は淡海新聞に掲載あり（該新聞紙は永讀せず拙文記載の一葉は故田中先生の手元に在りしが今は其存否を知らず）又其後（年月を忘却す）文部省發行の教育

雜誌(第百號前後ならん)に兒童摸倣性に就ての予が拙文該雜誌に記載あり其當時予は中學と云はず小學と云はず總て教育上には多少の力を盡し兒童の爲め少年の爲め進歩改進黨を謀れり故に履歷書中には學校用として教草三拾枚寄附とか琢成小學校へ金員寄附とか協同學校へ幼稚園之記寄附と云様な辭令褒詞のあるは此精神の公表せられしものなり其後大津に師範學校が出来同校の植物教授は松本駒次郎氏(予も幾回も相往來せり)なりし予は此時植物學階梯三卷を編纂し其草稿を故田中芳男先生に寄せて檢閱を請求せしが縁となり同先生より東京の勸諭を受け之が爲め遂に中學教員を辭し登京し博物局員となる是より前さ若狹多太ヶ嶽産「シヤクナギ」イワウチハ」其他に就て同先生に質問示教を受けたることもあり(該植物學階梯は後ち廢棄す)其植物園は予が退校と共に廢園に歸す噫 其人存則其政舉其人亡則其政息むとは此謂ならん 大正十二年四月 藤野寄命 記 齡七十又六

○なにかみしゝらんと藤野寄命翁

牧野 富太郎

羊齒類ノしゝらん屬即チ *Vitaria* ノ一種ニ *Y. Fudinoi* Makino. ト稱スルモノガアツテ四國九州ノ深山中生ジテ居ル之ヲなにかみしゝらんと稱スル是レハ中實獅子蘭ノ意デ其囊堆即チ子囊群ガ中脈ト葉緣トノ中間ニ位スル故ニ此様ナ名ガ附ケラレタノデアアル然ルニ松村任三博士著ノ訂改植物名彙ニながみしゝらん(*nagami-shishii*)即チ長實獅子蘭ノ意ノ名トシテアルノハ誤リデアアル、ソシテ此なにかみしゝらんノ和名ヲ始メテ此羊齒ニ下シタ人ハ當時東京ノ博物局ノ天産部ニ在勤セラレテ居ッタ藤野寄命君其人デアッタ同君ハ明治十七年ノ初夏ノ頃ニ同局カラ植物採集ノ爲メ四國地方へ出張セラレ即チ五月二十四日ニ伊豫ノ久萬町附近ノ小田深山デ始メテ此羊齒ヲ見出採集セラレ乃デ上ノ和名ヲ下サレタノデアアル私ハ其後私ノ友人デアッタ吉永悦郷(吉永虎馬君ノ